みんなでつくる 100 年の広場

みどりのもとに集い、まちを育む

約 100 年前、国立駅と共に大学町が生まれました。赤い三角屋根の駅舎、水禽舎のある円形公園が特徴的な駅前広場は人々が集まる場所でした。これらは時と共に車中心の空間に変わっていきました。現在、旧駅舎の再築を機に、駅前を人中心の空間とする機運が高まっています。そこで、**駅前から大学通りにつながるみどりと人の空間をつくり、そこに集まる動植物も含め、それぞれが居心地よく過ごせる駅前広場**をコンセプトとしました。そして、そこに人々が関わり、様々な活動を通して考え学ぶ場へと成長する国立駅南口駅前広場を目指します。

設計方針（素案）

上記のコンセプトを実現するために、具体的な設計方針を下記にまとめました。

全体方針

- みどりや人の空間を増やし、憩いやにぎわいが生まれ、人や生き物がゆっくりと過ごせる広場とします。
- 大学町として成長してきたまちの歴史や文化を継承します。
- 人の動線、緑、生き物のネットワークやにぎわいが周囲につながり、まちの回遊性を高める広場とします。
- 時間帯や季節による多様な使われ方、イベントや災害時利用などにも柔軟に対応できる広場とします。
- ソーシャルインクルージョンの考え方に基づき、様々な人に使いやすいユニバーサルデザインの広場とします。

設計方針（素案）を構成する

5つのデザイン

景観のデザイン

- 大学通りから旧駅舎への眺望を尊重します。
- 大学通り、富士見通り、旭通りの３つの軸を活かします。
- 整備当初から残る円形公園の形状などを継承したデザインとします。

広場のデザイン

- 沿道と一体となって、憩いやにぎわいが生まれるデザインとします。
- 広場全体で憩いやにぎわいが感じられるよう、各空間同士が見通せるデザインとします。
- 夜間でも安全・安心な場所となるよう、適切に照明を配置します。

共創のデザイン

- 地域の人々や来訪者が、それぞれに合った様々な形で広場に関わることができ、愛着を持てるデザインとします。
- 人々が使いやすい広場とするため、多様な人々と一緒に広場のデザインを考えます。
- 寄せられた意見やワークショップの成果を踏まえたデザインとします。
- 社会実験などで使い方を試しながら、様々な活動を通して考え・学ぶ場へと成長する広場を目指します。

交通のデザイン

- 交通機能を最適化し、コンパクトに配置します。
- 歩行者も車両利用者も使いやすく、安全・安心なデザインとします。
- 耐久性が高く、長く使用できる素材を用います。
- 一時的に車両通行路を切り替えることより、大イベント時などに広い歩行空間を確保できるデザインとします。

環境のデザイン

- 武蔵野の気候・風土にあった植栽を増やし、大学通りのみどりにつながるデザインとします。
- 人々が木陰や四季の緑を楽しめるよう、駅前広場全体で効果的に緑を配置します。
- 既存の桜をできる限り長生きさせつつ、将来的な桜の更新も考慮したデザインとします。
- 雨水浸透を促す機能をもつグリーンインフラを活用し、災害対策と環境改善の両立を目指します。
- 維持管理やコストに配慮しつつ、素材のリサイクルやCO2削減などSDGsに資するデザインとします。

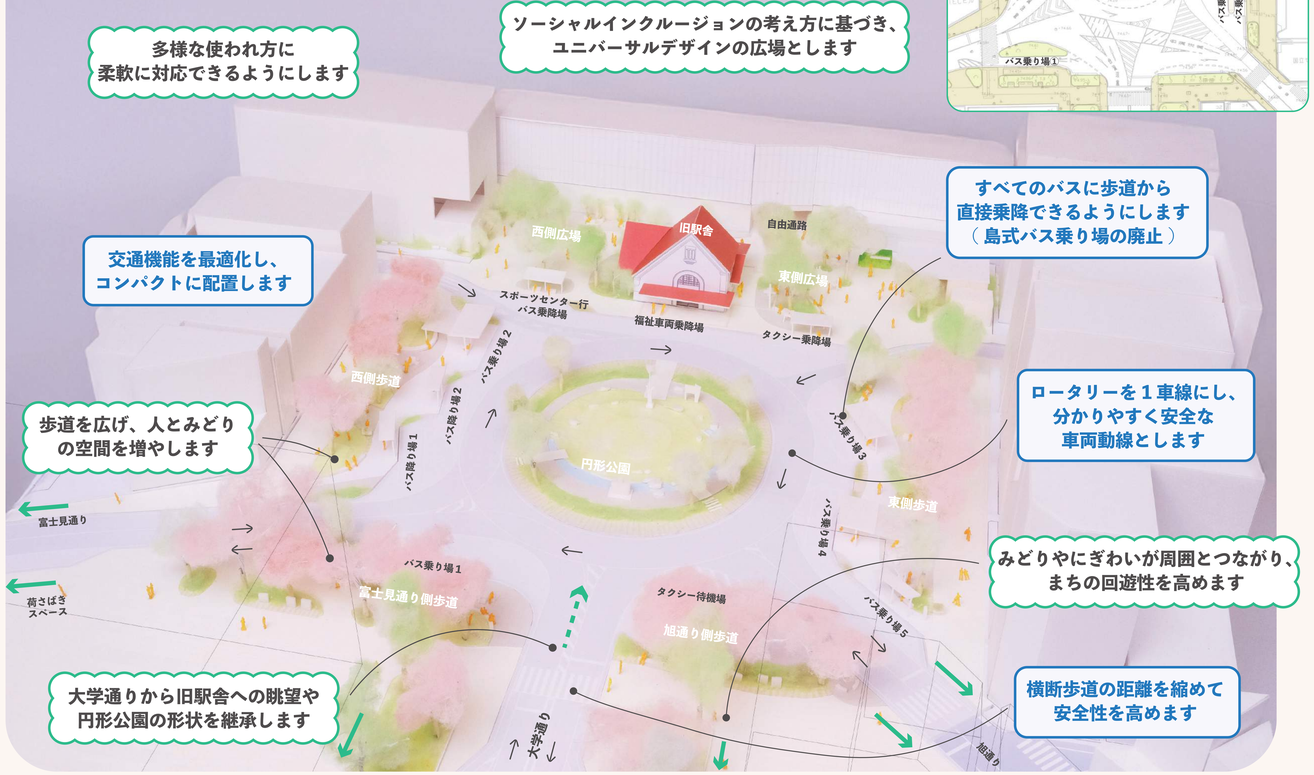
計画イメージ（素案）

皆さまからのご意見を踏まえて、人のための空間整備、交通利便性の向上の双方の視点から、国立の顔づくりを進めます。

※本計画イメージは、変更が生じる可能性があります。

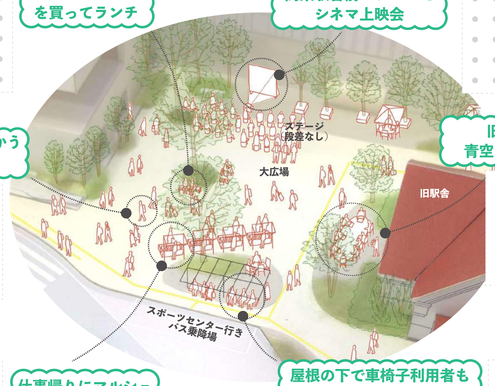
凡例

- 設計方針（素案）に基づく考え方
- 交通利便性の向上に資する考え方



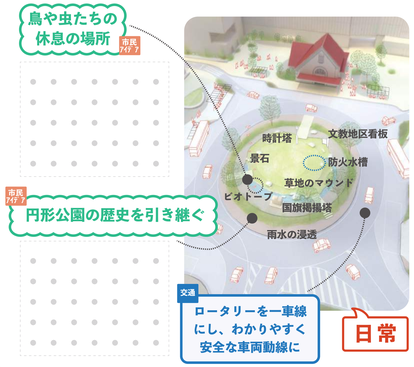
1 西側広場

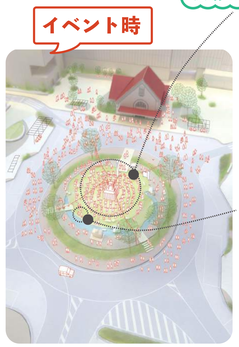
中央の広いスペースの周りに木陰の憩い空間が配置されます。高架駅舎前のステージの活用など様々なイベントが可能な広場となります。



2 円形公園

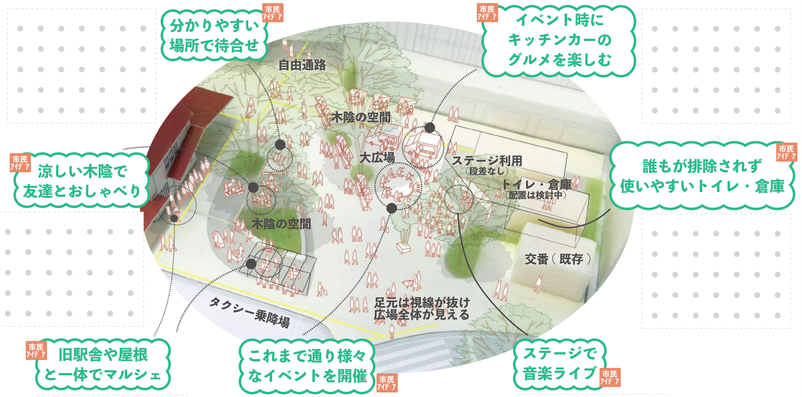
生物たちの休息場所であり、イベント時には人も入れる場所になります。





3 東側広場

最初に出会う広場。木陰の下のゆったりとした憩いの空間とトイレ・倉庫の周りにひさしがあります。旧駅舎と共に、一体的に様々なイベントに利用できます。



意見募集
コレカラの国立駅南口駅前広場でできるコト

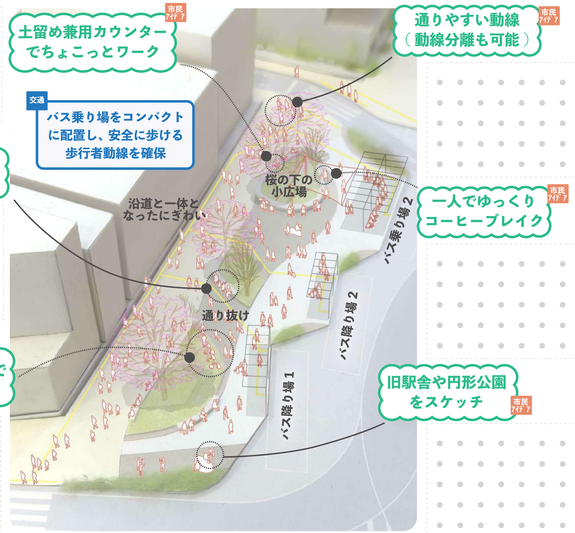
ワークショップやアンケートなど通じてこれまでに頂いた皆様の声をもとに、リニューアルする新しい駅前広場の計画素案をまとめました。それぞれの場所で「こんなコトができる！」という活動イメージをご覧いただき、みなさんの興味・関心があるものに**シール**を貼ってください（**シールは１人３枚**、うち一番関心があるものには**橙色のシール**を貼ってください）。

市民アイデア ワークショップやアンケートなどで出された市民のアイデアをベースにした活動内容

交通 交通に関する大切な考え方（シール投票の対象外）

4 西側歩道

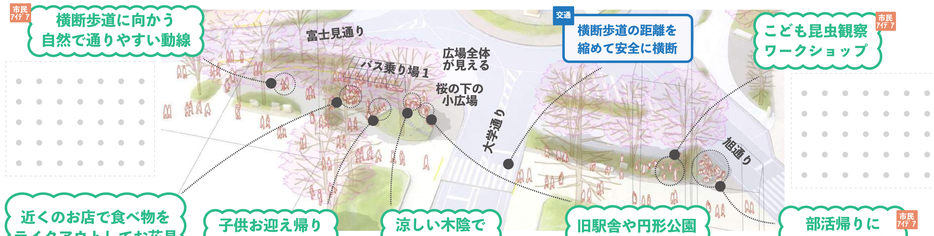
歩道が約 1.5 倍に広がります。十分な広さの通行スペースに加え、桜の下に滞留空間が生まれます。バスを降りた人がちょっと立ち寄れる憩いの場となります。



5 富士見通り側歩道

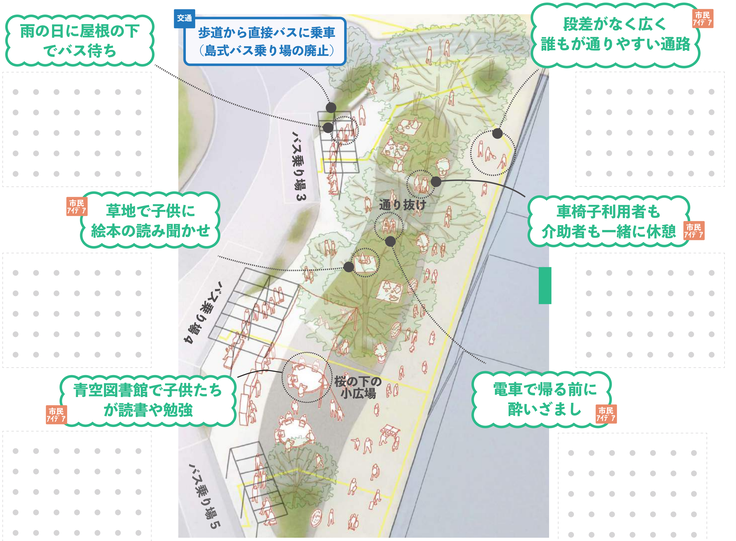
まちとの接点にあたる広場。旧駅舎や円形公園が印象的に見える落ち着きのある広場になります。周囲のお店で買ったものを食べながら、ゆったりと過ごせる場所となります。

6 旭通り側歩道



7 東側歩道

歩道が約 1.5 倍に広がります。十分な広さの通行スペースに加え、桜の下に滞留空間が生まれます。バスを待つ人はもちろん、それ以外の人も憩える場所となります。



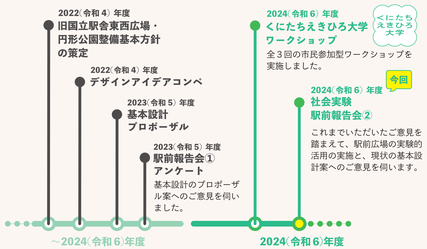
くにたちえきひろ大学

ワークショップ & 社会実験

国立駅南口駅前広場の基本設計を進めています。2024（令和6）年度、市民の皆さまと一緒に駅前広場のミライを考えるため「くにたちえきひろ大学」をスタートしました。これまで、3回のワークショップを実施し、いただいたたくさんのご意見を踏まえて、この度、実際に駅前広場のミライを体験していただく、社会実験を実施します。

市民の皆さまと進める「国立の顔づくり」

国立駅南口駅前広場整備においてはこれまで、整備基本方針の策定や、デザインアイデアコンペの実施などを通じて、たくさんの市民の皆さまのご意見を聞きながら取り組みを進めてきました。これからも、市民の皆さまのご意見を大切に、皆さまと一緒に取り組みを進めていきたいと考えています。2024（令和6）年度は、市民参加型のワークショップと社会実験「くにたちえきひろ大学」をスタートしました。



▲取り組みのあゆみ

くにたちえきひろ大学 ワークショップレポート

くにたちえきひろ大学のワークショップは、各回異なるテーマで3回実施し、東西広場や円形公園などの現地確認、ゲストをお呼びして設計チームとのトーク、意見交換を実施しました。これまで開催した3回のワークショップの内容や結果を報告します。

くにたちえきひろ大学とは

国立駅南口駅前広場整備に向けた市民参加型のワークショップと社会実験。3回のワークショップと社会実験を通して、さまざまな視点から駅前広場について議論し、そして実験を通して駅前広場についてみんなで考える場です。

第1回

2024（令和6）年7月14日（日）

「駅前広場のみどりから100年後を考える」

国立のまちのこれまでの100年を踏まえて、駅前広場のこれからの100年の未来年表を考えました。

意見交換で出た意見のポイント

車の量が減り、みどりが増え、駅前は公園のように利用される未来

駅前は通行のためだけでなく、人が過ごす場所として公園のようになっていく未来が描かれました。

第2回

2024（令和6）年8月10日（土）

「駅前広場の日常をさんぽから考える」

様々な立場があることを理解し、駅前広場での日常の過ごし方を、平日、休日に分けて考えました。

意見交換で出た意見のポイント

多様な使い方を想定した「可変性」を大切にしたい

平日、休日など時間ごとに、多様な人による異なる表情での駅前広場での過ごし方が描かれました。

第3回

2024（令和6）年9月8日（日）

「駅前広場の活動からわたしを考える」

駅前広場で、どんな活動があると良いか、またやってみたいか、自分事で具体的な活動を考えました。

意見交換で出た意見のポイント

誰もが主体的に関わることができる駅前であること

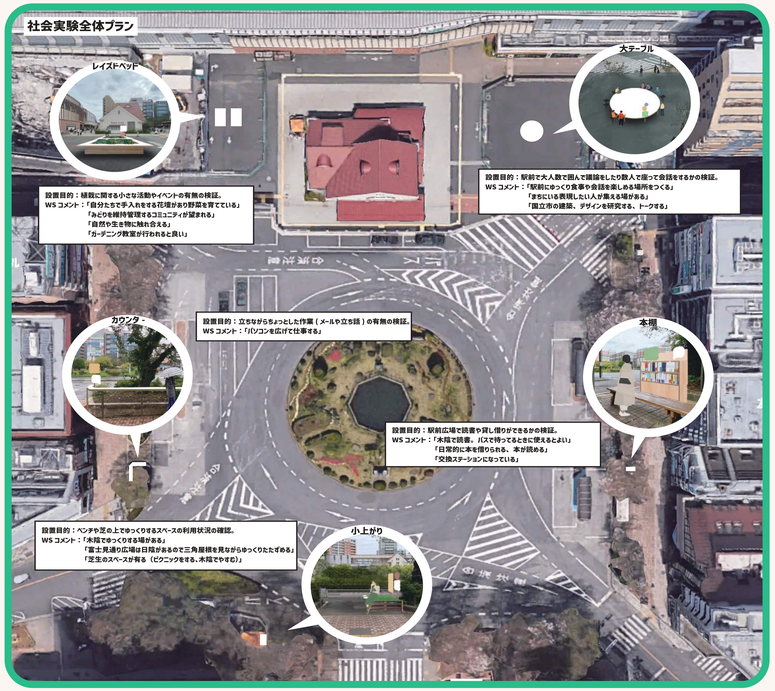
居場所を手作りできることや、演奏が自由にできるなど、主体的な関わり方に関する意見がありました。

駅前広場を居場所にする グリーン・ファニチャー・アクション

社会実験

今回の社会実験は、これまで皆さまからいただいたご意見を踏まえて、駅前広場を交通のためだけではなく「人のための空間」として活用する実験的な取り組みです。東西広場や歩道にテーブル、ベンチなどのストリートファニチャー*を設置します。皆さまが実際に駅前で過ごしていただいた居心地などのご意見、ご感想をいただき、これからの駅前広場整備に活かしていきます。

ストリートファニチャー*｜路上に設置されたテーブルやベンチなどの家具



▲全体配置図

実施期間（ファニチャー設置期間）

2024（令和6）年11月6日（水）→ 11日（月）

※本社会実験は、期間延長する可能性があります。